



ニュースを教育・研究の視点から発信する OTEMON VIEW

# どうあるべき？ 能登半島地震を機に考える 災害大国・ニッポンの災害ボランティア

## 追手門学院が OTEMON VIEW を開設

学校法人追手門学院(大阪府中央区、理事長：田口順一)は大学公式 HP に特設サイト「OTEMON VIEW」を開設しています。

<https://newsmedia.otemon.ac.jp/>

## OTEMON VIEW とは

「ニュースの面白さは、見方次第。」をコンセプトに、日々移り変わる世の中の出来事を、追手門学院大学の教員らが教育・研究成果など専門的知見に基づいて読み解きます。

### 人気の記事 \よく読まれている記事！/

1 2021.09.02 地域・観光  
死海文書とは何か。日本語訳プロジェクトに携わる研究者が明らかす、その全貌  
92506Views  
OTEMON VIEW編集部

2 2022.10.07 社会と暮らし  
男女平等ランキングはなぜ低い？日本のジェンダーギャップ解消に求められる家族観・政策の視点  
61081Views  
OTEMON VIEW編集部

3 2021.03.05 社会と暮らし  
「半沢直樹」になれない現代人へ。「感情資本」は社会を生き抜くヒント。感情のコントロールとは。  
33516Views  
OTEMON VIEW編集部

4 2020.08.24 ところどころ  
すぐそばにある薬害問題。「薬害根絶デー」に考える薬害被害について  
28552Views  
OTEMON VIEW編集部

### OTEMON VIEW 人気記事ランキング

## ニュースを教育・研究の視点から

能登半島地震に対する支援では、政府の対応の遅れが指摘されるだけでなく、ボランティアへの自粛ムードが生じました。現地を訪れた人々が SNS で問題視され、「行かないことが支援」といった言葉も生まれたようです。

過去の震災経験を社会共通の記憶として持つ日本において、この現状をどのように捉えるべきでしょうか。社会運動論の視点からボランティアを捉えた研究を行ってきた社会学部の林 大造教授とともに、改めてボランティアの意義・役割を考えます。

(以下は主なポイント)

### 日本の災害ボランティアの現在地、その課題

- 能登半島地震後にみたボランティア自粛ムード。加速させた「秩序化へのドライブ」
- サービス化が進む現代の均一化・効率化・数値化の壁

### 社会運動論の視点で捉えるボランティア

- ボランティアは「権利領域の拡大の担い手」である
- 「ドミナントな物語」と「もうひとつの物語」
- 東日本大震災のボランティアで実感した「声なき声」を聞く必要性
- 今こそ見直したい「神戸宣言」のスピリッツ

記事本体:<https://newsmedia.otemon.ac.jp/3275/>

どうあるべき？ 能登半島地震を機に考える災害大国・ニッポンの災害ボランティア



記事イメージ

この資料の配付先：大阪科学・大学記者クラブ、北摂記者クラブ等

【発行元】

追手門学院 広報課

TEL : 072-641-9590

仲西・織田